

令和6年度 中央区立明石幼稚園 外部評価報告書

評価委員：守本利雄、櫻井栄、中川理巳、箱守由記、牛嶋智春、桑原洋一、矢田雄滋  
須田桐美、渡辺幸雄、岩上芳照（敬称略）

報告書作成者：守本利雄

評価時期 令和7年2月

## 1 重点目標の評価

○評価が全体的に高く、目標が達成できていると受け止めた。幼稚園の様子を見ることがよくあり、その際に、前の日から教師がたらいに水を張り、氷ができるよう事前準備をしていたことで、朝、登園してきた子どもたちが氷に触れる経験をしていることが見られた。また、桜が一輪咲いた日には、それを一緒に喜ぶ姿が見られた。日々、様々な環境に幼児が触れられるようにしていることで、幼児の表情がキラキラと輝いている様子が見てとれ、保育の充実が伝わった。

### 重点目標1「多様な動きを経験できる遊びを取り入れ、体を動かして遊ぶことを楽しむ幼児を育む」

○幼稚園教育では、「考えながら遊ぶ」ということができる環境・援助をしていることがよいと感じる。運動遊びでも、様々な挑戦ができるよう、今後も工夫してほしい。

### 重点目標2「園内の環境を活かした指導の工夫を図り、夢中になって遊ぶ幼児を育む」

○年長児の協同的な遊びを参観した際、幼児が想像し、さらにそこから創造する姿が見られた。その中で、幼児が自主的にルールを作り、遊び方や客の誘導の仕方を考えており、この姿が小学校の教育につながると感じた。

○親子で楽しめる行事を取り入れるというように、教師が充実した教育をしていることがうかがえる。それが、また遊びにつながると感じられる。

### 重点目標3「異年齢児や様々な方との関わりを通して、思いやりの心を育む」

○幼稚園の年長児と小学校5年生が、計画的・継続的に交流しているという話を聞き、併設のよさが生きていると感じる。またそれが、園児にとっては小学校への期待につながり、児童にとっては、最高学年になる自覚につながっていくだろう。

## 2 今後の改善に向けた意見

○学校評価の結果から、保育の様子をもう少し担任の先生から聞きたいという意見があり、3学期より、毎日、保護者一人一人と話をできるように、降園の仕方を変えたということを知った。それは、自分から話しにくい保護者にとっては、担任と話すきっかけとなり、安心感をもつことができると考えられる。今後も、引き続き、子育て支援を充実させてほしい。

## 3 その他の意見

○感染症については、今は落ち着いてきたように感じると思うが、これで収束したと思わず、危機管理はもつようにすることが必要である。特に、最初を見逃さず、広げないようにすること、そして保護者が忙しいと受診をしない・遅れるということになるため、初期対応を行なえるようにしていく。